

2022 年度 小委員会活動成果報告

(2023 年 2 月 11 日作成)

小委員会名	各部構法計画小委員会		主 査 名：信太 洋行 就任年月：2022 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築計画委員会 (設計計画・構法計画運営委員会)		委員長名：清家 剛 主 査 名：小見 康夫
設 置 期 間	2022 年 4 月 ～ 2024 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>「構法の情報化」と「構法史」に関する研究を推進すること、および研究と実務の最新情報の交流・収集を目的とする。「構法の情報化」は、構法教育における BIM 活用や、今まで収集してきた構法写真データベース等を対象に、デジタル・アーカイブ手法を検討する。</p> <p>「構法史」は、構法計画・建築史・建築設計等の複数分野の専門家の連携を通じて、構法史研究という概念の明確化と研究手法に関して検討する。こちらの研究課題については WG を設置し、小委員会で進捗状況について議論する。</p> <p>初年度：①「構法の情報化」に関する研究を推進すること②「構法史」に関する研究を推進すること③最新構法事例に関する講演会・見学会を企画し、研究と実務の交流を行うこと</p> <p>2 年度：「構法の情報化」と「構法史」の融合と対外的な情報発信を行う。</p>		
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無		
	主査：信太 洋行 (東京都市大学) 幹事：熊谷 亮平 (東京理科大学) 委員：池尻 隆史 (近畿大学)、石田 航星 (早稲田大学)、岩村 雅人 (工学院大学)、 江口 亨 (横浜国立大学)、岡路 明良 (鹿島建設)、奥村 誠一 (青木茂建築工房)、 小見 康夫 (東京都市大学)、加戸 啓太 (千葉大学)、門脇 耕三 (明治大学)、 小久保 彰 (駒沢女子大学)、佐藤 孝一 (金沢工業大学)、角田誠 (東京都立大学)、 前島 彩子 (明海大学)		
設置 WG (WG 名：目的)	構法史 WG：構法計画・建築史・建築設計・建築計画等の複数分野の専門家の連携を通じて、構法史研究という概念を明確にするとともに、研究手法についても一定の方法論を見いだすことを目的とする。		
2022 年度予算	135,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス：有	

項 目	自己評価
委員会開催数	3 回 (年度内計画を含む：構法史 WG は 3 回)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	
大会研究集会	建築計画部門パネルディスカッション 「構法史のアクチュアリティー構法と歴史から、いまつくることを考える」 参加者数 106 名
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	

<p>目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)</p>	<p>1. 7月21日、構法史WGとの合同委員会を開催し、構法史研究の研究手法の一つとして、デジタルツインの可能性に関して議論した。12月26日の委員会では、逗子市の登録有形文化財を対象に、その活用方法や構法教育への展開に関して議論した。</p> <p>2. 建築学会大会(北海道)のPDでは、構法史WG主催「構法史のアクチュアリティ」を開催した。リバーエンジニアリングや工業化、物質の翻訳の過程等、様々な情報提供を通じて、立体的に構法を捉える必然性や合理性に関して議論した。</p>
<p>委員会活動の問題点 ・課題</p>	<p>見学会が開催できず、研究者と実務者の交流が滞っている。</p>